

## 令和3年度第2回 堺市農業振興ビジョン検討懇話会

日時	令和3年11月12日(金) 13:00~15:00
場所	堺市役所 本館3階 第2・3会議室
出席者	大西座長、中塚構成員、檀野構成員、霜野構成員、藤田構成員、松田構成員、高岡構成員、平野構成員、磯和構成員
欠席者	寺下構成員、武田構成員、南山構成員

### 開会

- 事務局  
第2回堺市農業振興ビジョン検討懇話会を開会する。
- 事務局
  - ・懇話会構成員紹介（武田構成員・寺下構成員・南山構成員は欠席。）
  - ・資料確認（配布資料読み上げ。）
- 大西座長  
早速議事に入る。事務局より資料の説明をお願いする。

### 案件

#### 1. 堺市農業振興ビジョン（素案）の検討について

- 事務局
  - ・「堺市農業振興ビジョン（素案）」、「堺市農業振興ビジョン（概要資料）」を説明。
  - ・寺下構成員、武田構成員の意見を紹介。

#### （寺下構成員）

JAとして対応すべき課題・取組みが多いと認識している。特に地産地消について、機会あるごとにJAとしても情報発信をしていく。堺産農産物にはどのようなものがあるか、どこで買えるかなどについてどのように知ってもらうかが重要である。

#### （武田構成員）

重点プロジェクトについて横断的に相互に連携しながら取り組むイメージが伝わるような見せ方ができるとよい。「地産地消」が広義・狭義等様々な意味合いで各所に登場するため言葉の整理が必要ではないか。都市農業振興基本法の関連で、もう少し都市としての掲載があったほうがよい。

- 事務局  
この件については構成員の意見を踏まえ、未反映ではあるが、プロジェクトの横の連携ができるような表の組み方や、「地産地消」含めた課題の設定の再検討、再整理を行っている。また都市農業としての記載についても、既に生産緑地のことや堺市都市計画、マスタープランとの連携については追

加で記載しているが、もう少し肉付けできるよう検討する。

○ 大西座長

どのような角度からでもよいので、全体的な質問・意見があれば願います。

○ 霜野構成員

消費者基礎調査結果の「堺産農産物を購入する動機になること」のうち、「もっと購入できる場所が増えれば」が最も高くなっているが、この点についてはぜひ行政主導で取り組んでもらいたい。

「もっと「堺産」であることが分かりやすければ」については、しものファームでは、「堺市産」と明記する、あるいは「堺のめぐみ」マークや「大阪エコ農産物『泉州さかい育ち』」のマークを付けるなどし、地産地消につながればと取り組んでいる。「もっとほかの農産物と比べて違いや良さがわかれば」については生産者の課題である。他産地産の軟弱野菜と並べて見た目では違いがわかりにくい、味や品質等で選んでもらえるよう、栽培技術を磨かなければならない。そのために大阪府の「農の普及課」または JA 堺市と連携したい。またコロナ禍で2年ほど中断しているが、堺市農水産課主催の研修会で、美味しくて人気のある商品を栽培している先端的な農家へ視察に行く企画をぜひ再開してもらいたい。農家が自己研鑽できる場所を設けてほしい。

○ 事務局

市の研修会での視察はコロナ禍で止まっている。今後の状況を見ながらぜひ再開していきたい。

消費者基礎調査結果の「堺産農産物を購入する動機になること」については前回平成28年2月に「またきて菜」の利用者にアンケートをとった際にも今回と同じものがトップ3に入っていた。

「もっと購入できる場所が増えれば」については、引き続き増やしていけるよう努力する必要がある。また前回にも意見が出たが、バイヤーとの関係の件もある。一旦仕入れてもらってもマンネリ化し、継続できない可能性がある。やはり定期的にメンテナンスしなければならない。バイヤーが変わることもあるが、パイプを絶たないように、またパイプを増やすように努力する必要がある。

「もっと「堺産」であることが分かりやすければ」については、「堺のめぐみ」のロゴもリニューアルしたので、野菜袋に付けてもらうなどして消費者のアイキャッチをしたい。

どのような地元産を知ってもらうかについては、生産者が見えるという意味で、ハウスや畑に同じマークののぼりや看板を立てるなどし、そこで作っていることがわかるようにする。圃場で作っている姿を市民に見てもらい安心できるということを PR していきたい。マークの普及についてもよろしく願いたい。

○ 中塚構成員

p.4「戦略④食と農を支える地域連携強化」において「市内で採れた食材を食べる」という行動変容を促す活動支援とあるが、戦略④として輪郭がぼやけているように思える。具体的にどうすれば食べるような行動変容につながるか、想定している活動があれば聞きたい。

p.3「堺市の農業施策について今後重視すべきこと」には上位3つが出ているが、食料・農業・農村基本法などもできているように、農業施策のほかにも「消費者づくり」を位置づけるのであれば、「食べる人をどのように確保するか」なども今後重視すべきことの後ろのほうにはあったのか、元のカテゴリがほかにどのようなものがあつたかわからないが、その中に入っているかどうか。

農業者基礎調査と消費者基礎調査のなかでは、「エシカル消費」という言葉が出てこない。堺市の農産物をただ単に扱う店があり買ってくれる人を待つのではなく、買ってくれる人を育てるような施策をもっと積極的に言葉として出せればよいのではないか。

消費者の行動変容の手段のひとつに「ナッジ」がある。釣りをするにも撒き餌をしなければ魚は寄ってこない。環境省も環境によいものに対してポイント制を導入しているが、堺市産の農産物を買うことで良いことがある、ナッジのような仕組みをいくつか事前に作っておけないか。

#### ○ 事務局

重点プロジェクトで具体的に想定している取組みについて、堺産農産物を扱ってもらう店頭での表示、ステッカーを貼る、あるいはミニのぼりをレジの横に置くなどで客の目につくところでアピールしていくことには取り組みたい。また飲食店での利用促進の取組みとして、前回懇話会で紹介した「やさいバス」をはじめ、堺産とわかって購入できる場や流通を検討し、連携しながら広めていきたい。

アンケートについては素案 p.14-15 を見てもらいたい。「堺市の農業施策について今後重視すべきこと」「営農を継続するために必要なこと」について上位3つ以外の項目もすべてグラフで表示している。「食べる人を育てる」という発想はこのアンケートを作成した時点ではなかった。

買ってくれる人を待つのではなく、食べる人をどう確保するか、ということについて、我々のほうで具体的にどこまでできるかを表現できていない。ビジョンに直接どこまで書けるかは検討の必要があるが、意見でもらった考え方も取り込みながら、具体的な業務としてどのようなことができるかしっかり考えたい。

#### ○ 中塚構成員

コロナ禍で消費の仕方も変わった。高級魚が売れなくて困った卸売り業者が、買ってくれるのを待つ前に、魚をセットにして車で運んで大量に売りさばいたという話も聞いた。しものファームの野菜もスーパーでよく見るが、一人で買える量はせいぜい3束程度と限られている。そこで、堺市内の会社が10箱単位で共同購入するなど、大量に流通できる仕組みがまだまだ考えられるのではないかなと思う。売れない、と困ったコロナ禍の実体験が堺市産を売るときのヒントになるのではないかな。

#### ○ 平野構成員

ロゴマークが変わった点について聞きたい。カラーであれば何色になるか。

ステッカーを貼る話もあったが、売場に小旗を立てるようなことはできないか。袋に表示するのであれば、軟弱野菜の緑色に対しピンクなど、消費者の目につきやすい色の工夫が必要かなと思う。

#### ○ 事務局

「堺のめぐみ」のロゴは、上が青（空・水をイメージ）、右がピンク（太陽）、下が緑（葉）、左が黄色（大地）であり、太陽や大地のめぐみを受けて育っているということで「堺のめぐみ」を囲っている。ロゴのコンセプトとして明るく清潔感のある色を基調としており、周りを輪でつなぐ形にして堺のめぐみを通じた人と人とのつながりを表現している。

カラーで印字すると袋のコストがかかりすぎて使いづらくなるので白一色にしている。緑色の軟弱野菜を袋に入れると、緑の下地に白のロゴが浮き上がるように見える。アンケートをとった「Umy

堺.com (うまいさかいどっとこむ)」のサイトを見てもらえるよう検索ワードを印字している。農家独自に袋を作る場合にはデータを渡して使ってもらっている。

ミニのぼりを置いたこともあったが、緑色で目立たなかったと思うので今回色を変えている。

○ 平野構成員

レジにステッカーが貼られていても購入にはつながらない。スーパーの野菜売場は大概店に入っ  
てすぐの場所にあるので、レジでステッカーを見ても売場には戻れない。有効に活用するのであれば、入り口などに置く必要があるのではないか。販売促進という意味では、売り場に行かなければわからないのでは意味がない。見せ方の工夫が必要である。

○ 高岡構成員

スーパーが近くであれば、堺産とほかの野菜を比べることもできるが、またきて菜周辺にほかの店舗がなく寂しい雰囲気である。立地的に山の中で寂しい。イベント等は開催されているのか。

○ 事務局

昨年と今年はコロナの影響で控えているが、通常であれば季節ごとに友好都市の物産展などイベントを行うこともある。12月はいつも創業祭なので通常であれば賑やかである。今年も派手ではないものの創業祭を行うと聞いている。木曜日は米の特売日なので、午前中は賑わっていた。

○ 磯和構成員

栽培技術については大阪府としても注力していきたい。府としても「大阪産 (もん)」をPRしているが、「大阪産 (もん)」という理由だけで購入する人は少ない。ひとつは、新鮮さをPRしていくことが重要だと考えている。具体的な施策は検討中だが堺市とも連携して取り組んでいきたい。

販売場所については、生産者と飲食店、食品関連事業者のマッチングを促す商談の場を設定している。中塚構成員の話にもあったが、個人消費者に少しずつ売るのでなく、企業など大きく消費できる相手との連携も含めて商談ができればと考えている。堺の商工会議所も来週の商談会で連携している。またリアルのみでなく「食べチョク」との連携など、ECサイト等を活用した商談も必要かと考えている。

消費者の行動変容について、東大阪ではフードマイレージに取り組まれている。シールを集めれば一定の農地が守られるという取組みもされている。消費者の運動を高めるということで、フードマイレージの取組みも参考になる。スマホで気軽にできるようにするなど工夫して取り組めば若者も取り込めるのではないか。一緒に検討してもらえるとありがたい。

○ 壇野構成員

農家が個人で販売先を確保するシステムでは発展しない。JA等が主体となって一括で共同販売できる仕組みが必要である。小売店との連携なども生産者個人では対応しきれない。市場等に出荷するしかないが、市場に出荷してもスーパー等で堺産と謳って売ってくれるわけではない。生産したものをどこかが一括で責任をもって買い切ってくれるなら頑張る生産するが、作っても販売先がわからないのでは担い手の確保は難しい。

○ 事務局

「大阪エコ農産物『泉州さかい育ち』」については、JA が事務局となって出荷部会を組織し、共同でスーパーへ出荷している。学校給食についても計画的に必要な量を確保する必要があるので事前に調整しながら JA が主体となって組合員を集め共同出荷している。

○ 壇野構成員

給食の分も生産しているが、軟弱野菜の必要量を安定的に生産するのは難しい。米の場合は一括して収穫できるのでそれほど難しくないが、野菜について年間通して一定量の品物を確保するのはなかなか難しい。確保するにはそれだけの冷蔵庫を整えることが必要である。堺市は兼業農家が多いので、売り先が確保できなければ作る人も少ない。必要量を買ひ上げるから作ってくれと言えば皆作ってくれるだろう。

○ 霜野構成員

冷蔵庫などかなり大きなものを作ったので JA 堺市の設備は今整っている。エコ農産物出荷部会については、有能な営業マンがいないことが最大の課題であると会長は認識していた。農家から費用を出してもよいので、スーパー等と商談し取引につなげる人材が必要である。そこが最大の弱点だ。

○ 松田構成員

JA 大阪南では各部会があり、出荷部会が市場と契約し、市場から各スーパーへ商品が卸されるなど活動の流れが作られている。特価品で広告を出す際などには通常より多く出荷してほしいと交渉するなど、流れはできている。

○ 大西座長

生産と消費を結ぶ人、小売店を確保し堺産農産物を PR しコーディネートする人材の確保が課題として挙げた。具体的にビジョンの中にどのように書き込むかは課題ではあるが、取組みの中で対応してもらえるとよい。

○ 松田構成員

資料 p.3 農業者基礎調査結果について、認定農業者 752 名の回答があったとのこと。担い手の確保や販売促進は一般的だが、「トラクターなどの農業用機械の整備」が 23%ある。

担い手の確保に向け、例えばトラクターを購入すると 300 万円程度かかるが、その費用をどう確保していくか。やはり収益の多い作物を、となるが、新規就農者の投資負担が大きい。経営としての財務計画を学ぶ機会もあると良い。JA としては融資の手伝いもするが、どうすれば最も収益性のあがる農業ができるかを検討する場を作る必要がある。

キュウリ 3 本 100 円ではなかなか 300 万円を返済できない。特産のナスビは、自分が農協に入った 30 年前も現在も 1 杯 2,000 円である。野菜の単価は変わらないが周りの物価は上がっている。

JA としてハウスや農機具購入の際に相談も受けているが、農機具も徐々に良くなっており省力化もできるようになっている。トラクターの前は耕運機で歩いていた時代があったが、現在は非常に良い農機具が出されているので省力化についても検討が必要である。

JA も市役所も助成金などに注力していかなければ日本の農業は徐々に減っていく時になっている。せっかくとったアンケートの結果も何らかビジョンに反映できるとよいのではないかと思う。

○ 事務局

アンケートでの農業機械の整備については課題として認識している。担い手が高齢化していくなか少ない人数で残された農地を守っていかなくてはならないため、省力化や効率化に向けたスマート農業の導入を支援していきたいと考えており、取組みとしては p.25 戦略②の中で挙げている。

p.26 では「都市農業振興施策」として、重点プロジェクトではないが都市農業を守っていくために取り組まなければならない取組みとして項目を挙げている。その中でも施策 2-5「農業機械・施設等の整備支援」はしっかり取り組むべきこととしてこの表の中でも一番上に出している。

補助金を整備すれば返済は軽くなって助かるだろうが、予算の限りもある。融資で購入するか補助金で購入するかなどは農家から相談を受けた際に話を聞きながらどのような方法があるか組み立てていければと考えている。

新規就農者については国の施策で交付金等もあるので、それらの手続きのなかで、栽培する野菜の種類や数量、収入、ハウスや機械の返済計画も計算に入れながら指導を行うなど、実務として対応していきたい。

○ 中塚構成員

農業機械が壊れて修理代がかかるタイミングが農業をやめるきっかけになると高齢農家の何名かから聞いたことがある。田んぼも田植えと稲刈りだけやってくれれば水の管理はできるという人もいる。知り合いの若手の農家は JA をやめてオペレーターとして農業を担っている。

都市農業振興施策 2-9「多様な担い手の確保」の担い手には、オペレーターのような立場の人も視野に入っているか。

○ 事務局

堺市内でオペレーターとして活躍している人は、認定農業者になるなどそれなりに規模拡大している。地域で組合を作り、組合員が少しずつ手伝いながら一緒に農業をやっていくケースもある。

多様な担い手については、例えば新規就農者も本格的に農業で稼いで食べていこうという人のみでなく、半農半 X など農業を少ししながらほかの仕事をするような形もある。一人ずつは小さくともそういう人が数多くいれば守られる農地も出てくる。その意味で多様な担い手を増やしていければと考えている。

○ 中塚構成員

認定農業者の中にオペレーターが 7 名ほどいると壇野構成員から聞いた。例えば平日 2 日休みがあり農業機械を運転してみたいと考えるような非農家の人が都市部の農家をオペレーターとして支援するような仕組みもできるのではないか。

田植えイベントも手植え・手刈りすると大変で、農業の大切さや農業がしんどいものであることを伝えることも大事だが、農業機械に乗せてあげると、楽しいと感じる中学生や高校生の男子などもある。半農半 X の農家ではない立場の人をオペレーターとして入れるように仕向ける仕組みが必要ではないか。

○ 霜野構成員

ロゴマークやのぼりのデザインは誰が最終決定したか。もしのぼりのデザインを変更することが

可能なら、消費者団体代表として平野構成員にも見てもらってはどうか。

○ 事務局

ロゴマークのリニューアルに関して地産地消推進協議会の中で議論し、最終的に決定した。基本的なマークは変えられないが、色味やデザインは柔軟に使えるようにしたい。

○ 平野構成員

のぼりではなく、野菜の山に挿すような小旗があると良い。三角の小旗にロゴマークがひとつ描かれているだけでよい。イベント等ではのぼりが効果的だが、日常的な買い物場ではそういう見せ方のほうが良い。

○ 事務局

平野構成員の団体のメンバーにも入ってもらっているのもまた意見を出してもらえるとよい。グッズについてもこれだけというわけではなく、ひとまずのぼりを準備しただけである。

○ 大西座長

地産地消推進協議会の宿題としてまた議論してもらいたい。

○ 霜野構成員

「買ってくれる人を育てる」という部分や「エシカル消費」などは今後の課題となるが、どのように取り組むべきか良い意見があれば聞きたい。

○ 事務局

大変難しいテーマであると思う。安いから買うのではなく、地元だから応援したい、という風土づくり、環境整備、意識の醸成につなげていきたいとは考えている。具体的な施策としてはアイデアがまだないが、その部分も常に意識しながら検討していきたい。

○ 大西座長

様々な角度から意見を出してもらった。今回は素案にもとづき概要版の形でコンパクトにまとめられた資料とスライドで紹介された。「地産地消」を前面に打ち立てながら、将来像の実現に向けた戦略として、「戦略①：食と農を支える地域連携強化」では、いかに堺の生産物を消費者に届けていくか、「戦略②：持続可能な農業の振興」では特に新規就農者、担い手に関し、様々な角度から担い手を育て支援していくこと、また「戦略③：魅力的な都市農空間の形成」については欠席の構成員からも意見があった。いずれも積極的な意義のある発言をもらったと思う。特に施策展開にあたってはいかに効果的な取組みにしていくかという角度から発言があった。

今回の素案については構成員からの意見を踏まえ、再度事務局にて最終提案の形でまとめたうえで提示してもらいたい。この後のスケジュールに関し説明をお願いする。

○ 事務局

スケジュールの前にひとつだけ改めて確認したい。

概要資料の最後、堺市基本計画 2025 の KPI として「市内で採れた食材を食べていると答えた人の割合」55%を目指している。この達成に向けて、特に重点プロジェクト①に紐づく目標設定として、

どのようなものが適当か、何か意見があればお願いしたい。

現在想定しているのは「堺のめぐみ」を表示して出荷してもらえる農家数として、全体の 40%に出荷してもらえば、堺市内全世帯の 55%に届く量が確保できるだろうという見込みで、現在の販売農家 650 名の 40%として 260 名を目指そうと設定している。

また、購入できる場を増やす意味で、農産物直売所・マルシェ・出店イベントの数として、年間 50 件開催できれば堺市の全世帯が一度はどれかに訪れる機会があるという見込みで設定している。

重点プロジェクト②は農家・生産者、重点プロジェクト③は資源としての農地について設定しているが、特に重点プロジェクト①の目標をもって取り組むことで最終的に「市内で採れた食材を食べていると答えた人の割合」55%につなげていきたいと考えている。

○ 霜野構成員

たくさんの人に食べてもらうために、農家として、おいしく、安全・安心で、適正価格の、良い商品づくりを進めていきたい。ブランド野菜でも価格が高ければ消費者は買わない。安く提供できるよう、可能な限り栽培面積を広げ、大量生産し、多くの人に届けられるよう生産者として努力したい。

○ 松田構成員

計画期間について、p.6 では 2025 年度まで、p.4 では 2026 年度までとズレがあるが、間違いないか。

○ 事務局

農業振興ビジョンは 2026 年度が目標、もう一方は堺市基本計画で 2025 年度が目標となっており、計画期間が 1 年ずれているので、最終の目標年度も 1 年の差がある。

○ 中塚構成員

目標値は当然 100%が望ましい。どんどん上げていくべきものだと思う。

KPI に挙げている「市内で採れた食材を食べていると答えた人の割合」の「食べている」は、どの程度食べていることか。

○ 事務局

アンケートの設問文はこれだけであり、具体的な頻度などは尋ねていないのでわからない。「(概ね 6 か月以内)」とだけは限定している。

○ 中塚構成員

1 回でも食べれば「はい」になり、そういう人も含めて増えることが「重要業績評価指標」となっているのは違和感がある。

マルシェのイベント数 50 件の指標もあるが、マルシェなどは一日拘束され駐車場代を支払い、売上は 1 万円もいかないなど、生産者にとってメリットが小さいケースもある。マルシェは「顔合わせの場」という位置づけにしている農家も少なくない。

1 回でも堺市の人イベントに行ける数として 50 件と目標設定したとのことだったが、もう少し具体的に、堺産農産物を食べていることが対外的にわかる指標にするほうがよいのではないか。

先ほど話したボックスセットの配送サービス、あるいは堺市のどの生産者の農産物が届くかわか

らないサブスクリプションサービスなど様々に考えられる。それらを1回でも購入したと明確に答える人などを数えるべきではないか。単純に市内で採れたものを食べたと答える人の割合よりは、堺市の農産物が流通して確実に生産者から消費者のもとに届いたということがわかり、促進するような目標であるとよい。今の指標は、本当かな、と疑ってしまう数値が目標となっているように思う。

○ 事務局

基本計画 2025 の目標値自体は修正できない。次の計画期間などで何か考えられればと思う。

また「6か月以内に消費した」で「はい」と回答するということは、何らか消費にあたり印象に残ったということかと考えられるので、意味のある数字かと思う。

○ 大西座長

数値目標は非常に大事だが、より中身のある指標にし、効果的な取り組みをしてほしいという意見があったと思う。最終目標と具体的な戦略に関わる基本的な目標に関しては、現在の指標を前提に取り組んでもらいたい旨、懇話会の意見としてとりまとめたい。最後にスケジュールなど説明をお願いする。

2. その他

○ 事務局

今後のスケジュールを説明したい。今回の懇話会の意見を盛り込み、「素案」から「改定案」とする。その後庁内調整を経て、市民に広く意見を聞くパブリックコメントを12月から1月、1か月間で実施したい。

第3回懇話会についてはパブリックコメント後の開催を予定しているので、追って日程調整する。庁内調整の結果として大幅に内容が変わる場合はパブリックコメントを2月から3月に実施することになるため、その前に第3回懇話会を開催し、再度議論してもらうことになる。

スケジュールが確定次第連絡するのでよろしくお願いします。

○ 大西座長

以上で第2回堺市農業振興ビジョン検討懇話会を終了する。

閉会

以上